

人口問題研究所
研究資料第四號



昭和二十四年七月一日（初版）
昭和二十五年五月一日（再版）

妊娠中絶（墮胎、死流産）の割合に関する資料

厚生省人口問題研究所

第一表

自然的死産率

(妊娠回数100に付き)

国名	報告者	割合	年次
アメリカ	Prinzling	10-20% (白人)	1931
フランス	Handman	19.3	1930
アメリカ	Dickinson and Beam	29.6 (白人)	1931
"	Atix	30.6 (ニューヨーク)	1935
"	Wiehlund Berry	17 (白人)	1937
"	Pearl	白人 { 13.3 (ニューヨーク) 10.9 (シカゴ) } 黒人 { 13.1 (ニューヨーク) 15.9 (シカゴ) } 1937	
日本	暹岐	4.8 (平均)	1932
"	篠崎	2.23 (東京)	1948

自然的死産率はどのくらい発生するかを妊娠回数一〇〇についての割合としてしめす各国の資料は第一表の通りである。

二、自然的死産

妊婦中絶に関する資料はきわめて乏しい。殊に人工的妊婦中絶（墮胎）に関する資料において著しい。

以下は自然的死産と人工的妊婦中絶の二種にわかれ若干の参考資料をとりまとめたものである。

一、付しがき

第二表

産児制限実行、不実行別自然死流産率

(妊娠回数100につき)

実行、不実行別	ニューヨーク市		シカゴ市	
	白人	黒人	白人	黒人
a 初産婦産児制限 不実行者	3.5%	6.0%	2.2%	0%
b " 実行者	2.1	4.8	0.9	0
c 経産婦産児制限 不実行者	16.0	14.4	13.2	18.8
d " 実行者	14.2	13.5	13.4	16.4
東京都及び近郊町村				
A 産児制限 実行者	2.70%			
B " 不実行者	2.09%			

本表に依れば日本人の割合は一番低い。外国ではすべて十%をこえているが日本では二%内外に見るのが妥当である。なおこれらの外国資料は、三、〇〇〇乃至四、〇〇〇回の妊娠を対象として調査されたものであるが、日本の東京都一般人口を対象とする調査は一六、〇〇〇回の妊娠を調査対象としている。

産児制限実態調査に附帯して行われたこの東京都における調査結果を、更に、産児制限を行っていないものと、行わない者とに大別して、パールの結果と比較して見ると第二表の通りである。

本表によれば日本人では産児制限実行不実行者間に大差はなく、稍々実行者の方が高い率を示しているが、アメリカ人では初産婦、経産婦に差がある外、産児制限実行者の方が不実行者より低い割合を示している。

中
44

第三表 墮胎率

妊娠回数100について

実行	不実行別	ニユーヨーク市		シカゴ市	
		白人	黒人	白人	黒人
初産婦産児制限	不実行者	7.7%	0%	14.3%	0%
"	実行者	20.0	0	0	0
経産婦産児制限	不実行者	11.4	2.4	5.2	11.8
"	実行者	29.7	16.7	20.0	0
平均		21.0	6.6	15.1	5.8

東京都及び近郊町村

産児制限	実行者	2.40
"	不実行者	0.39

三、人工妊娠中絶
 合法、非合法を含めた墮胎の割合については、同じくパールの調査結果を示せば第三表の通りである。なお参照のため東京都における調査結果をもあわせ示す。

之によるとアメリカにおける墮胎率は白人は一五・二一%位、黒人は五・七%位である。
 日本人についても産児制限の実行不実行者間に差が見られ、前者は二・四%であるが後者は一%にも達しない。
 これから一般的に言えることは産児制限を実行する人々の方が墮胎率も高いと言ふことである。

なお、直接の墮胎統計ではないが、嘗てベルリンの疾病金庫（健康保険組合）統計の結果によると、一九二九年出産百に対し流産は百三という数字を示し、かつその割合は累年増加之傾向にあった。そしてこの流産の大部分は墮胎であったと推察されている。

然し一九三三年十千スの登場以後はこの種の流産は着しく減少し、一九三四年、三五年には出産百に対し二〇—一〇位にまで減少した。

又フランスでも出産よりも墮胎の方が多いと想像されており、*Stambert* 教授は（一九三三年）フランスでは出産七〇万に対し墮胎は八〇万あると推定している。またベルギーについても、

Ullkopp 女史によれば出産一五万に対し、墮胎は一五万—二〇万と報告されている。

（篠崎 技官）